

F1CwRC (-) 以下となった。本法はEVLで大きな静脈瘤を消失させた後、硬化療法を施行するので、出血の危険が少なく安全である。食事制限もほとんど不要で、苦痛も少なく、短期間で治療が完了できた。重篤な合併症は認めておらず、これまでの硬化療法に比べ優れていると考える。

13. 胃・大腸腫瘍浸潤における cathepsin D の免疫組織学的検討

(消化器内科)

杉山茂樹

癌の浸潤、転移に関与するECM分解酵素の一つであるcathepsin Dの発現を胃・大腸の腺腫と高分化腺癌を対象に粘膜下浸潤や予後の判定因子について考察した。

〔対象〕胃は腺腫(粘膜内癌を含む)14例、早期癌16例(penetrating early carcinoma (PEN) 7例、Non-PEN 7例)、進行癌8例、大腸は腺腫12例、早期癌18例(表面型12例、非表面型6例)、進行癌12例、免疫染色の抗体はNCL-CDmでlabeled streptavidin biotin法を使用。

〔結果〕①胃・大腸腺腫はcathepsin Dの発現は認められず陽性例はいずれも浸潤癌であった。②胃癌は早期癌(86%)と進行癌(88%)とで差がなかった。③大腸癌は表面型早期癌(25%)と非表面型早期癌(100%)で差があり、進行癌は50%であった。④cathepsin Dの発現とly, v, n, Hとの有意な相関はなかった。

〔結論〕①cathepsin Dは癌の悪性の初期段階に作用し新しい予後判定因子と考えられる。②胃と大腸とで臓器特異性が考えられた。大腸では表面型癌と非表面型癌の遺伝子関与が異なる可能性が示唆された。

14. ヒト扁桃胚中心に分布するCD56陽性細胞の検討

(¹)消化器病センター、(²)第二病理学)

池田郁雄¹・増田昭博²・安藤明子²・

笠島 武²・光永 篤¹・林 直諒¹

〔目的〕これまでに、Leu7陽性細胞がNK様細胞と報告され、胚中心内で免疫組織学的検索が行われた。その後、Leu7陽性細胞は大部分がT細胞であると証明された。国際NKワークショップでNK細胞はCD3⁻CD16⁺CD56⁺、CD3⁻CD16⁻CD56⁺の細胞で細胞障害を示す細胞と定義された。胚中心内の細胞についてCD56陽性の検討の報告はこれまでない。最近、NK細胞は、胚中心のB細胞の制御に関係していると、指摘された。今回我々は、扁桃の胚中心を用い、CD56陽

性細胞の免疫組織学的検討を行った。

〔方法〕成人5例の扁桃を新鮮凍結し、間接法にて免疫染色を行ない、連続切片上で比較検討した。標本を写真に取り、陽性細胞の位置を写真上で確認した。二重染色ではCD56を間接法にてDAB発色し、CD3を滴下し蛍光抗体法にて確認した。

〔結果〕CD56は、胚中心の中にも存在し、主にlight zoneにみられ、mantle zoneやdark zoneとの境界部にも認められた。dark zoneにも少数認められた。非常に小さな胚中心の中には、ほとんど認められなかった。二重染色では胚中心のCD56陽性細胞はCD3陰性であった。NK細胞と関連の深いCD16は、CD56と同じく、胚中心の中にも存在し、light zoneに多くみられた。

〔結語〕胚中心のCD56陽性細胞はCD3陰性とNK細胞である可能性が示唆された。light zoneに多くみられたことからFDCとの関与が考えられる。今後、Leu7陽性細胞との関連について検討したい。

15. 慢性化した急性肝炎患者におけるHCV envelope蛋白質の経時的変化と免疫応答

(消化器内科)

関谷仁美

C型肝炎ウイルス(HCV)はゲノムの多様性が特徴的であり、特にエンベロープ蛋白質(gp35, gp70)をコードする領域のアミノ酸変異は持続感染の成立に関与している可能性がある。我々は、急性肝炎から慢性化した2症例についてこの領域の経時的変化を解析し、さらにアミノ酸レベルで経時的変異を認めた部分に対する免疫応答性を検討した。その結果、2症例ともアミノ酸の経時的変化と、その変異した部位に対する抗体を共に認めたのはgp70のN末端に存在する超可変領域(HVR1)のみであった。また、HVR1に対する抗体は経時的変異を認めたアミノ酸を含むペプチド内にエピトープが存在することが明らかになった。以上より、HVR1の経時的変異が持続感染の成立に関与していることが示唆された。

16. C型慢性肝炎のインターフェロン療法における甲状腺機能異常の発症に関する多変量解析を用いた検討

(消化器内科)

渡辺 麗

〔目的〕多変量解析を用いてインターフェロン(IFN)療法における甲状腺機能異常の発症の危険因子を検討した。

〔対象・方法〕IFN療法を施行した109例を対象とした。甲状腺機能検査はIFN投与後定期的に測定した。